



古墳時代前期の土器溜まり

松林寺遺跡 現地説明会資料

平成 28 年 11 月 12 日 (土) 10:30 ~

島根県埋蔵文化財調査センター

1. はじめに

島根県埋蔵文化財調査センターでは、国土交通省から委託を受け、一般国道 9 号（静間仁摩道路）改築工事に伴う松林寺遺跡（大田市仁摩町大国）の発掘調査を実施しています。

松林寺遺跡は、潮川（うしおがわ）の右岸に位置する弥生時代から古墳時代の集落遺跡です。遺跡は潮川を望む標高約 30m の丘陵斜面に位置しています。

調査面積は約 600 m²です。発掘調査は 9 月 6 日から始めました。

松林寺遺跡のある丘陵の下には、同時期の溝や土器溜まりなどが見つかった大国地頭所（おおぐにじとうしょ）遺跡があります。また、潮川の対岸の平地には大規模な縄文遺跡である古屋敷（ふるやしき）遺跡が、その上の丘陵上には弥生時代後期の建物跡や 24 基の古墳時代前期～中期の古墳が見つかった庵寺（あんでら）遺跡、庵寺古墳群があります。

2. 調査の成果

弥生時代後期から古墳時代前期（約 1,700 ~ 1,900 年前）の、斜面を平坦に造成した加工段（作業スペース）、掘立柱建物、土器埋設遺構（大型の甕を横倒しにしたもの：用途は不明）、焼土などを確認しました。

出土品には、弥生土器や土師器（はじき）の壺、甕、高坏、鼓形器台（つづみがたきだい）など、地元山陰の土器が、遺跡内の谷部を中心に多数出土しました。

3. まとめ

松林寺遺跡のある丘陵の下には、同じ時期の集落遺跡である大国地頭所遺跡があることから、潮川の右岸の丘陵斜面から丘陵裾にかけて、集落が営まれていたことがわかりました。

潮川の対岸の丘陵上には弥生時代後期の集落や古墳時代前期～中期の古墳が見つかった庵寺遺跡、庵寺古墳群があり、潮川下流域の遺跡の移り変わりをつかむことができました。

また、地元山陰の土器のほか、現在の福岡県に分布する弥生時代後期の壺が出土し、日本海を介した地域間の交流が行われていたことがわかりました。



国土地理院 HP から引用

松林寺遺跡と周辺の主な遺跡